

No.2922

先史時代東南アジアにおけるモノ・ヒト・技術とその移動に関する考古学的研究
—新たな海域ネットワークモデルの構築を目指して—

早稲田大学 文学研究科考古学コース
博士後期課程
深山 絵実梨

本研究の目的は、先史時代東南アジアにおける地域間ネットワークの動態に関する新たな考古学的モデルを構築することである。東南アジアとその周辺地域の過去のヒトの動態をより具体的に復元するために、特に①出土数が最も多く、地域文化の特徴を最もよく表すといわれる土器資料、②南シナ海周辺地域から普遍的に出土する石製耳飾、③鋳造という高度な技術によって製作された青銅器、以上の三つの考古資料を研究の対象として、従前提示されてきた二つの人類移動・移住のモデルに対して考古学的検証をおこなった。

研究二年目である 2018 年度は、主にフィリピン、ベトナムにおける現地調査を実施した。2018 年 7 月に実施したフィリピンにおける現地調査では、カラナイ関連土器の実見観察、胎土観察、胎土分析サンプルの選定を実施した。また、6 月には、装身具、特に耳飾の穿孔技術に関しての微細製作痕観察分析を台北で実施した。9 月のベトナム現地調査では、カラナイ土器出土遺跡であるホアジェム遺跡の資料を実見観察し、タイやフィリピンの資料群との比較検討、および、土器胎土分析のための分析サンプルを選定・借用した。また、出土装身具についても記録をし、これもタイやフィリピンと比較検討した。

こうした調査研究を通じて、南シナ海をとりまく先史時代の物質文化や人々の動きについて研究メンバーで議論を重ね、海域ネットワークの形成に関するモデルの検証、新たなモデル構築をおこなった。

調査研究においては、フィリピン国立博物館、ベトナム南部社会科学院、ベトナムのクアンナム省ズイセン県博物館より調査・研究へのご協力をいただいた。厚く御礼申し上げます。

[成果発表：深山絵実梨、鈴木朋美、Aude Favereau、劉俊昱、Nguyen Thi Bich Huong、飯塚義之、山形真理子「先史時代東南アジアにおけるモノ・ヒト・技術とその移動 -フィールドワーク報告-」於 東南アジア考古学会 第 263 回例会 (2019 年 3 月 23 日)]